

知事記者会見（平成22年4月19日）

●知事発表

（１）韓国訪問を終えて

●幹事社質問

（１）知事就任一年を振り返って

●その他の質問

（１）首長新党（日本創新党）結成について

（２）日本航空秋田名古屋便の廃止問題について

時間：13：00～13：35

場所：プレゼンテーションルーム

（幹事社）

時間になりました。知事の方から発表があるということで、よろしくお願いします。

（知 事）

私の方からは、1点だけ、韓国訪問の関係でお話をさせていただきます。

12日に秋田を発って、（15日に公務があるため）14日に帰ってこなければなりませんので、金浦－羽田経由で帰ってきました。

今回は大韓航空の秋冬便の運航継続の要請、「IRIS」（アイリス）効果で（韓国便が）大分混み合っていることへの対応、今後、秋田からの修学旅行客の数もかなり増える状況などについて情報交換を行ってきました。

もう一つ、韓国観光公社や旅行会社の韓進観光に行きまして、相互交流、インバウンド、アウトバウンドを含めて韓国との観光交流について協力を要請してきました。また、秋田県が（「IRIS」によって）大変恩恵を受けていますので、その御礼も含めて「IRIS（アイリス）」の製作会社テウォン・エンターテイメント社を訪問してきました。

いつもの年ですと搭乗率がなかなか上がらない状況の中、こちらからの一方的な要望ということでしたが、今回、大韓航空本社では専務で旅客事業本部長のチョー・ウォンテさんという方を中心にお会いしました。この方は今の会長の御子息で、いずれ社長になるのではとされている方です。（大韓航空の）秋冬便の運航については今の時点で「確約」という言葉はありませんでしたが、現在、大韓航空の（国際便は）地方ローカル路線では（秋田便が）トップクラスの搭乗率ですので、よほどのことがない限り運航は続くのではないかと考えています。今後、「IRIS（アイリス）」が韓国国内のみならず日本国内でも放映され、台湾とか中国とか東南アジアでも放映される予定があるようなお話でした

ので、また秋田への観光需要も増えてくるのではと思っています。

そういうことを踏まえて、(大韓航空からは) 状況を見ながら増便や機材の大型化についても検討を始めたいというお話がありました。私どもとしても、この「I R I S」(アイリス) 効果をできるだけ長続きさせるために、いろんな手立てを講じなければなりませんし、永久にこの「I R I S」(アイリス) 効果がある訳ではありませんので、いろんな企画を打ち出しながら、大韓航空あるいは韓進観光と提携して共同プロモーションを行いながら、相互誘客に努めたいということをお話ししてきました。

今回は、船会社には行く時間はありませんでしたが、大韓航空の方もいつもより好意的な形で応じていただいたような気がします。我々も油断することなくこの後も努力していきたいと思います。私からは以上です。

(幹事社)

今のお話の中で、機材の大型化とか増便、これを何か検討を始めたいという話ですか。

(知 事)

今のところ、(大韓航空の方では) 今後の予約状況とか、全体の効果というものがまだ見極められていない状況ではないかと思います。今の状況を十分踏まえて、また、この後の予約状況等を見ながら検討していくという意味だと思います。

(幹事社)

今回、すぐこうやりたいという話はなかなか出てこないと思うんですが、何かその手応えみたいなものというのは感じられましたでしょうか。

(知 事)

若干、社交辞令かもしれませんが、秋田便については大変大切な便として、今後、長期的に安定した形で運航したいというのが大韓航空の希望だというお話でした。ですから、今後も一定の状況が続けば、この後の運航も継続していくのかなと思っています。

(幹事社)

各社、この件につきまして質問のある方はどうぞ。

(記 者)

今のお話に関連してですけれども、機材の大型化と増便は知事の希望としては11月初めからすぐにでもっていうお考えなんでしょうか。

(知 事)

仁川経由での乗り換えも増便になると非常に便利になります。(今回の訪韓でも) どうしても15日に仕事がありましたので、私も東京経由で帰ってきました。一日置きの運航となると2泊の次に4泊というものとれるようになります。ヨーロッパ便とか中国、東南アジア便への乗り継ぎも非常に楽になります。増便についてはきちっと決めなければ増

便になりませんので、機材の場合はそのときによってお客さんが多くなると、ある便だけ臨時に大型機にということもできると思いますので、増便の方が秋田としては好ましいのかなと思っています。

(記 者)

増便ということなんですけれども、今、月・木・土で週3便出ているかと思うんですけれども、実際にこれを週何便にして、今空いている曜日だったら何曜日に増便してほしいというようなお考えなんですか。

(知 事)

具体的にそこまでは……。一番好ましいのは毎日なんですけれどもそこまではいかないでしょうから、何曜日というのは我々としては……。これからも情報交換はしていきますけれども。

(記 者)

「I R I S (アイリス)」の件なんです、撮影が冬だったということもあってですね、今後、夏場に向けた誘客というのが一つ課題になるんじゃないかという見方もあります。知事は先程、効果を長続きさせるための方策ということでいろいろ企画したいということでしたけれども、現時点で何か具体的に考えていることがあれば。

(知 事)

韓国からのお客様、最近は、団体以外も増えているということ、韓進観光、あるいは大韓航空から言われています。その方々は2、3人で行動して、既存の名の売れた場所以外にもいろんなところに行きますので、韓国語の案内板、標識等がまだまだ足りない状況です。また、韓国語で(簡単な)あいさつをするということも(観光客には)印象がよくなります。CSの放映では、この土曜日にちょうど駅前の飲食店の場面が出ていました。(お店が)はっきりとわかるように出ていましたので、そういうところへお客さんが行ったり、道を聞いたりするということもあるでしょうから、市町村とも協力して、できるだけ(韓国語の)案内標識、あるいはあいさつ程度ができるようにということを、一気にはいきませんが地道な取り組みが必要だと思います。あと、もう少し夏場の売り込みもしなければならぬと思います。

(幹事社)

幹事社から質問になります。ちょうど県政一年ということで、まず一年間を振り返りまして、どう自己評価をされているのか、よろしくお願いいたします。

(知 事)

なかなか自分で評価するというのは難しいですけれども、もう一年たったのかなという感じで、私はあまり肩に力を入れて今日で一年だとか、選挙で何票取ったのかということも頭の中に入れないたちで、ごく自然にやっています。ただ、先般もお話ししましたが、健

康で公務に支障を来したことは1回もなく、風邪もひかずに今日ここまでこれたなど。

もう一つは、この政権交代という政治の節目の中で県政運営を担わせていただいたと、大きな流れの変化の中での対応ということは、この後も忘れないのではないかと思います。

あと、世界的な景気低迷の中で持ちこたえるため一生懸命やらせていただきましたけれども、上昇気運、安定気運については、私自身もそういう認識はありません。やはり、早めに安定気運、あるいは少しでも前進しているというのを見たいというのが偽らざる県民感情だと思いますので、その点については引き続き努力をしなければならないと思っています。いろんなところでいろんなお話をさせていただいてきましたけれども、県民の皆さんの大きな認識というか、県政として何に取り組んでほしいかというところについては、私の認識とそう変わらなかったと、政策の方向性はほぼ一致しているのかなと思っています。問題は絵に描いただけ、言っただけでは済みませんので、先程、お話ししたとおり、実績が見えるような形にしていかなければならないと思っています。

そういうことからすると、準備段階としての点数はある程度つけられる訳ですがけれども、政治は結果責任ですので、今の段階で何点ということについては、私からはあまり自信を持って言える状況ではないということは確かです。

(幹事社)

具体的にお聞きしたいのは、ご自分でその一年を通して、これはやれたなど、あるいはこれはちょっとやろうと思ったんだけどできなかったなどということがあれば、教えていただけますか。

(知 事)

例えば医療問題については、まだ具体的には決まっていますが、一応、今後の方向として、県の考え方をはっきり出しました。あとは個別具体論で進んでいけばいいということで、その根拠となる議論は大体終わったのかなと思います。産業経済の面においても方向付けのところまではいったと。もう一つ、県内の農業関係者も含めて、それぞれ意欲のある方がたくさんいらっしゃるということでは非常に希望を持っています。そういう方々とできるだけお会いして、これから政策を展開することによって効果が出てくるという希望は持っています。下地作りは良かったと思いますけれども、まだ、幅広にご理解をいただくところまではいっていないということで、いろんなところへ行って県の考え方を地域の実態に合わせてお話をし、同じテーブルに上がっていただくように努力したいと思いますし、今日も、各部長が自分の分野だけではなく県政全体についてPRマンになるためマニュアルとか、あるいは(会議等での)あいさつについて、部局長会議で意志統一を図ったところです。

(幹事社)

これもたびたびお話しされてることかもしれませんが、前の寺田県政とどういうふうに違ってくるのかなというのがやはり県民の注目だったと思うんですが、寺田県政を総括するというのはなかなか難しいことですが、寺田県政とここが私は違いましたよというようなことがあれば、ちょっとお話しいただけますか。

(知 事)

これは人の性格にもよると思いますけれども、良いことか悪いことかは別にして、私は、(議会と)無駄な議論はしたくないと。職員に対しても右から左、あるいは斜めから状況を踏まえて取りまとめながら、政策を説明し、予算付けを行うようにということを言ってきました。逆に言うと、私が、非常に意地悪な人になって職員に対して質問を投げかけると、それに十分答えられるかどうか、訓練しながらやってきました。根回しと言われれば根回しかもしれませんけれども、ある程度の説明というのは事前に、その段階毎に出すようにしてきました。全部ということではないかと思いますが、大きな政策についてはそういうことを言ってきました。今回の元気創造プランでは、今まで県政総合計画を作ってきていましたので、今までの総合計画との違いというものを、最初議会の皆さんにもなかなかわかってもらえず、多少の議論のやり取りはありましたけれども、最終的にはおおよそご理解いただけたのかなと思っています。寺田さんのときは「遊学3000」という表題で相当(議会とも)やり取りしたということがあったと思いますけれども、私は名前とか、表わし方というよりも中身の方ということで、センセーショナルにはやりませんでしたので、逆にすんなりいくところはあったのかなと思っています。

ただ、最初の計画はそんなに違わないと思います。考えが極端に違うということはありません。一定の条件設定が同じ場合は、そう(計画に)大きな違いは出てこない。ただ、これから、医療問題にしても、22年度からの方向性は決まったけれども中身の問題になると、かなり議論をしなければならない状況が出てくると思います。向かう方向については、県議会の議員の皆さん大体同じ理解ですけれども、方法論になりますとそれぞれの会派、あるいは個人で大分違うと思います。ですから、我々が県としての柱をきちっと立てて、ご理解をいただくということについて、これから相当議論があると思っています。

(幹事社)

今、議会についてちょっとお話がありました。議会、自民党が与党という状況もある訳ですけれども、例えば赤松農林水産大臣の発言問題であるとか、中央街区の問題であるとか、幾つか県議会の中でも、いろんな見方が割れてちょっとギクシャクしたところもあると思うんですけれども、例えばこれからその県議会に対してのスタンスというか理解を求めるということで、反省とか、今後何かこういうことに気を付けていきたいなということがあれば、ちょっとお話しいただけますでしょうか。

(知 事)

基本的に、与党と野党という立場ですけれども、それぞれ(私に対しては)是々非々だと言っております。私は政党人でもありませんし、政党公認候補でもありません。そういうことからしますと、私はどのような会派、政党の方の意見でも、良いものは認めて政策に移すという考え方です。

ですから、どの政党、あるいはどの会派だからと、デジタルな関係で駆け回るということではないと思います。そこが外から見ますと、やや緊張感に欠けるという点に見えるか

もしも。 (私は) 与党・野党ということで区別をして、片方の言うことは丸飲みして、片方の言うことは全部頭から否定するというのは地方行政になじまないと思っています。

例えば当初予算について反対に回った方であっても個別のものについて、いいものは取り入れるという柔軟性を持って私はやっていきたいと思います。(私の中では) はっきりとした区分けはないんですけれども、与党と言っている皆さん方は、野党という方々の方針をあまり斟酌しますと、感情的に面白くないこともあるかもしれませんが、それはそれとして、私は良いと思ったものについては政策に移していくと。それをご理解いただくためにみんなで頑張るということではないかと思っています。

(幹事社)

それじゃ、これについてですね各社から質問を受け付けたいと思います。よろしく願います。

ありませんか。その他質問でも何でも結構ですけど、今の一年でも結構ですし。

(記 者)

知事が冒頭におっしゃいました、今後に関して、絵に描いた餅ではだめだと。少しでも実績が見えるようにしないといけないとおっしゃっていました。知事がおっしゃるこの「実績」というのは、どういったことをイメージしていらっしゃるでしょうか。

(知 事)

経済状況がこういう状況ですので、秋田県だけでどうすることもできないこともたくさんあります。これはこれで素直に認めざるを得ませんけれども、しかし様々な形で、今回の韓国便 (の好調) についても、県が一生懸命やったというよりも、たまたま (「I R I S」 (アイリス) 効果で) こういう状況になったという面もあります。今度は県の関与で、県の努力の中で効果が出てきた、あるいは、新しく中核企業の育成制度等の政策を展開する訳ですけれども、そういう中から、例えば新たな受注が取れたとか技術開発に成功したとか、取引先の展開が幅広になったとか、一つ一つの具体的な (例を) お話しできるようにすることが必要ではないかと思っています。少子化対策にしても、今のところ難しいですが、一生懸命コーディネーターの方も頑張っています。地域に結婚ムードが出てくるとか、数字というよりも雰囲気になるかと思っています。一方で雰囲気的なことと、雰囲気ではなくて取引数とかの数字的な実績と、この2つを追っていかねばならないと思っています。

(記 者)

今現在、考える中で、2年目に達成したい数字的な実績というのは、例えばどういうものがありますか。

(知 事)

個々の統計的数字はまだすぐ出てこないと思います。ただ、例えば中核企業の育成制度

なども、どここの会社でこういう新しい取引が始まったというような事例を表に出せるということがまず最初だと思います。統計的数字はその後に出てきますので、いきなりこの統計的なものが上がるというのは、なかなか難しいと思います。その変異点、落ちていたのが平行になると上に上がりますから、今年2年目は、ここまで何とかやらなければならないと思っています。

(記 者)

昨日、首長新党が立ち上がりました。地方の首長が政党を立ち上げて、動くというそういった動きについて、知事はどのように評価されていますか。

(知 事)

私も全国市長会の会長をやしまして、中田市長さんとか山田区長さん、区長さんも市長会の仲間ですので、面識がありましていろいろお話をしたこともあります。霞ヶ関というか、永田町の流れとは一線を画して、日本の政治改革を目指すという理念については大変立派な理念だと思います。

ただ問題は、前は国会議員だった方々ですから、どこら辺に狙いがあるのか、これがまだ定かではないと思います。これがどういううねりになるのか、見極めなければならないと思います。少なくとも国政のあり方については、地方自治体の首長として、注文はつけていかなければならないし、要望もしていかなければならない、あるいは評価もしなければなりませんけれども、私自身は国政という中には、入るつもりもありませんし、政党として、特段お付き合いするということも考えていません。

(記 者)

今回の新党のメンバーを見ると、比較的、都市の首長さんが多いんじゃないかという印象を持つんですけども、そのあたり、秋田はいわゆる「地方#12301」という区分に入りますが、その目から見てですね、どのような感想をお持ちでしょうか。

(知 事)

都市の行政をやって、ある程度アピール度の高い方々が多いわけです。理念はわかりますけれども、個々の自治体運営として見るものがあつたかなというと、そこら辺はどうかという感じがします。どちらかというと中途半端な結果の中で移っていったような形に見えて・・・現職（の知事）で同調する人はいないのではと思います。応援団はいるでしょうけれども。わかりませんが。

これから、落選した人とか、（首長を）退任された人が（新党のメンバーに）入ってくる可能性もあるのかなと。そうすると、ちょっと力が弱まるのではないかと思います。現職の首長への訴え方が非常に足りないというのは、この後どうなるのかと。落選した方、落選したことを悪くいうのではないですが、一旦引退した方がまた出てきてという集合体だと、国民としてはフレッシュ感に欠けるのかなと思います。

(幹事社)

そろそろ時間ですので、あと1問ぐらい受け付けたいと思いますけど。

(記 者)

首長新党に関連してちょっと確認させていただきたいんですが、新党を作る例えば山田氏とか、あるいはその応援団になっている上田知事からですね、お誘いというのは具体的に佐竹知事にあったんでしょうか。

(知 事)

ないです。私は若干肌合いが違うと思われてるんじゃないですかね。上田さんとは知事会では少しお会いしています。ほかの首長さんとは市長会でお会いしていますが、あの方々は市長会のときも、議論の中でものをやるという方ではなくて、ほとんど個人で動いている方でした。私は市長会の会長でしたので、一定の団体のルールの中で発言してきましたので、ちょっと（私とは）違うなという感じはします。

(記 者)

日本航空の秋田名古屋便の話ですが、そっちの方は、東北・北海道の知事で連携して要望したいという話ですけど、今どんな状況ですか。

(知 事)

東北・北海道知事会となりますと、いろんなその取り決めがありまして、今すぐという形には・・・ただ、愛知県も含めて、全国で対象となる路線を持つてる県全部ではありませんけれども、ここでまとまって行動をしようということにしています。というのは、知事会とか、東北知事会になりますと、組織決定というものが cần ですので、そう簡単にできないということです。有志で、愛知県が一番危機意識持っていますので、愛知県も含めて本県も入っていますけれども関係県の知事が統一行動でJAL、あるいは国交省等に当たっていくということで今動いております。

(幹事社)

それではよろしいですね。ありがとうございました。